

Interview



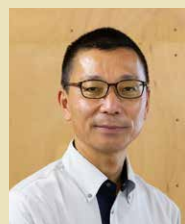
京丹波町 総務課
新庁舎建設室
主任
中村 昭夫 さん

町産材をPR できる イメージ通りの建物になった

新庁舎の建設にあたっては、地元産材でかつ地元で加工した木材を活用することを基本計画にしました。「木を見せていく」設計で、準耐火構造の建物であることが特徴です。そのために「組立柱」など新たな技術開発も行いました。これほど大きな木造建築を造ることは我々も初めての経験でしたが、様々な方々にご協力いただいたことで、木の存在をとっても感じていただけるイメージ通りの建物になりました。町産材のショールームとして、京丹波町には豊富な木があってこのような建物ができることをPRし、木造建築が広がっていくことを期待しています。



1.「組立柱」と「合わせ梁」で建てられた執務棟。「組立柱」は近くでじっくり見ないと継ぎ目が分からない。2.議会棟2階の議場の天井は鉄骨の梁が使われている。八角形の各隅から登り上がる梁が「蕪束(かぶらづか)」と呼ばれる中央の真束で釣り合いを取る構造になっている。3.大空間となる議会棟2階の大会議室には、集成材の柱が使われている。



大成建設株式会社
関西支店
京丹波町新庁舎建設
作業所長
河月 照幸 さん

木造建築の素晴らしさを 改めて実感

大型木造建築は、寺院など伝統建築での例はあっても、今回の京丹波町新庁舎のような公共の建物での採用は全国的にもほとんど例がないと思います。また、新型コロナウイルスの感染拡大と工期が重なったため、入場時の検温やマスクの着用、3密を避けるなどコロナ対策を徹底してきました。初めてのことも多くあり、貴重な経験となりました。建て上がってきて改めて思うのは、木の温もりが感じられる木造建築の素晴らしさです。町民の皆様が親しまれ、長く残っていく建物になると思いますし、それに携われたことに感謝しています。

組立柱



LAND MARK

京丹波町新庁舎

新庁舎は木造の議会棟(左)と執務棟(右)、RC造の中央棟3つで構成されている。(2021年9月撮影)

地域のサステナブルな 未来を創る 大規模木造建築

総面積の約83%を森林が占める京都府京丹波町では、新庁舎建設のプロジェクトを町内の豊富な森林資源を最大限活用し、持続可能な林業振興につなげることを大きなテーマとして進めてきた。新庁舎は大規模な木造建築でありながら防災拠点として高い耐震性や防火機能を確保し、使用する木材は伐採から製材加工まで地元で供給できるよう新技術で開発した「組立柱」(下記参照)などを採用。大部分の柱や梁を「木あらし」とし、内外装に町内産木材を使用することで、京丹波の森のポテンシャルを展示するショールームとした。先進的な公共木造建築として国土交通省の「サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)」にも採択され、町の新たなランドマークとなっている。



地元のスギやヒノキを最大限に活用し、柱や梁の木材を隠さず見せていく「木あらし」の内装になっている。

◎京丹波町新庁舎建設の工事概要

【発注者】京丹波町
【設計・工事監理】有限会社 香山壽夫建築研究所
【施工者】大成建設株式会社 関西支店
【建築面積】3,072m²、延床面積5,277m²
【工事期間】着工2020年2月27日～
竣工2021年8月31日

高い耐震性と防火対策を 備えた木造建築

京丹波町新庁舎は、木造の議会棟(右写真の左側)と執務棟(同右側)と、RC造の中央棟(中央のエントランス部分)に分かれている。大規模な木造建築を中央のRC造が支えることで、必要耐力を1.5倍にして高い耐震性を確保すると共に、万一の火災においても延焼を防ぐ構造になっている。建築はまず中央棟から始め、次に木造の二棟へと取り掛かった。「木造建築は柱・梁がそのまま化粧材になるので、工事においては養生に気を遣いました。建て方計画はエリアを細かく分けて、早く屋根を掛けることで化粧材が雨水にさらされないように進めました」(大成建設 河月所長)。

専門家チームも応援し 施工しながら課題を解消

木材は気候で状態が変わってくるため、木造建築では使用材の寸法誤差などの傾向を把握しなければならぬ。使用した「組立柱」はまったく新しい材料であり、その傾向をつかむことに苦労したという。また、議場や大会議室など大スパンとなる空間の構築など、木造建築ではあまり例のない工事が続いた。「本社から木造の専門家チームに応援してもらい、現場で課題を一つずつ解消していきました」(河月所長)。「ウッドショック」と言われる輸入木材の高騰や、輸送時の環境負荷が少ないことから国産木材が注目される中、京丹波町新庁舎は木造建築の新たな可能性を示す事例となっている。

新技術の「組立柱」を採用

1.「組立柱」は住宅用サイズの平角製材(120×240mm)2本をビス留めし、一体化することで荷重によるたわみに耐える力を高める新しい技術。2.品質を高めるため「組立柱製作ワークショップ」を開催。3.載荷加熱実験で準耐火性能が確保されていることを実証し、安全性を確認。

